

3. 中世大友府内町跡 第149次調査

調査面積 19.0 m² 調査期間 20.2.17～21.2.19 地域 A 調査担当 佐藤

1. 調査地点周辺の状況（第19・20図）

調査地点は、1987年に大分市史編さん委員会が作成した「戦国時代の府内復原想定図」の「光西寺」の寺域及び下市町に位置する。光西寺は現存する寺で、近世府内城・城下町においては最大規模の寺院であった。寺は府内城の裏鬼門である南西隅に位置し、当時は莫大な敷地面積を持ち、寺域内には本堂や庫裡、寺中寺と呼ばれる末寺が存在していた。もともとは文明年間（1469～1486）中に、中世府内まちの下市町に創建されたと言われているが、移転時期等是不明である。



第19図 調査地点位置図 (1/5000)

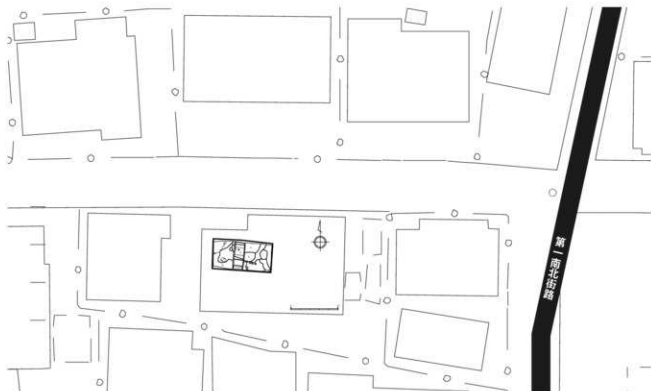
2. 調査の概要（第21・22図）

今回の調査は個人住宅建設に伴う調査である。対象地が中世府内町のなかでも光西寺の範囲にあたるため、寺域や寺に関連する遺構の確認を目的に調査を実施した。

調査の結果、16世紀前半頃の溝状遺構（S-5）及び広域に広がる不整形な掘り込み遺構（S-6）、16世紀後半の廃棄土坑（S-1）を確認した。溝状遺構（S-5）は、断面逆台形状を呈し、現状では調査区を東西方向に横断するものと推測される。土層観察から（S-6）を掘り込み、造られていることが分かる。また一度掘り返しが行われ、出土遺物から最終的に16世紀中頃には埋没する。

16世紀中頃以降になると、調査区全体は砂質土やブロック土（S3・4）が面的に広がるプランが検出される。

出土遺物は特徴的なものを第22図に記している。2は金属製品の刀子、7は低平な形状を有する土師器環で完形品である。5は中国産陶器の蓋底部と考えられる。

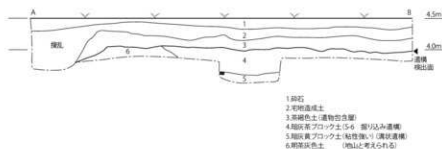


第20図 町149次調査区位置図 (1/400)

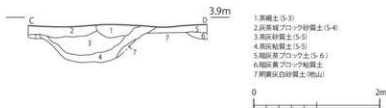
遺構配置図 (1:100)



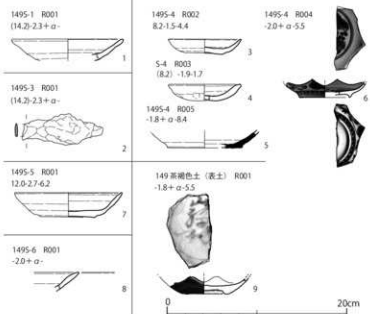
南壁土層断面図 (1:60)



トレンチ東壁土層断面図 (1:60)



第21図 町149次遺構全体図・土層図 (1/100・1/60)



第22図 遺物実測図 (1/4)

3. まとめ

今回の調査では、本地点が光西寺推定地と断定できる成果は得られなかったが、薄手の京都系土師器皿を含む整地 (S-6) とそれを掘削する東西方向の溝状遺構である S-5 を確認することができた。S-5 埋没後は砂質土を主体とする不定形なプランがみられ、それを掘り込み廃棄土坑 (S-1) が形成されるという場の変遷を把握することができた。

また、調査地の東約 30 m の地点に南北街路 (通称第一南北街路) が推定されることから、廃棄土坑がつくられる段階は町屋の裏手空間となることが考えられる。(佐藤・小野)

S 番号	種別	土色	出土遺物	切り合い	時期
1	廃棄土坑	—	土師器：坏 B、皿 C 景徳鎮窯系青花：碗 石製品：玉砂利 鉄製品：不明	6→1	16 世紀後半
2	ピット	—	土師器：坏 B、皿 C	—	16 世紀後半
3	土坑	茶褐色土	景徳鎮窯系青花：碗 B 国産陶器（中世）：備前焼播鉢 口縁部・胴部、甕 胴部 鉄製品：刀子	5→3	16 世紀後半
4	土坑	暗灰茶土	土師器：坏 B、皿 C、皿 C×B 須恵器：甕 底部 景徳鎮窯系青花：皿 国産陶器（中世）：備前焼播鉢 胴部、甕 胴部	5→4 4→3	16 世紀後半
5	溝状遺構	暗灰黄色土	土師器：坏	5→4・3	16 世紀中頃か
6	掘り込み遺構	—	土師器：坏 B 瓦質土器：風炉	6→5	16 世紀中頃
表土	—	茶褐色土	土師器：坏 B、皿 C 瓦質土器：鉢 瓦類：平瓦 景徳鎮窯系青花：皿 国産陶器（中世）：備前焼播鉢、甕	—	—

第 5 表 町 149 次遺構出土遺物一覧表



遺構検出状況（北より）



S-5 遺構掘削状況（北より）



S-5 東壁土層断面（西より）



S-5 遺物出土状況（北より）

大分市埋蔵文化財調査概要報告
令和2年度調査版

令和4年3月31日

編集・発行

大分市教育委員会文化財課

〒870-8504 大分市荷揚町2番31号
(097)537-5639

